



本資料は、米国アッヴィ社が2022年4月29日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2022年5月10日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

## PRESS RELEASE

2022年5月10日

### アッヴィ、2022年第1四半期の業績を発表

- 第1四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、26.1%増の2.51ドルでした。調整後希薄化後EPSは9.3%増の3.16ドルでした。これには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.08ドルのマイナスの影響が含まれます<sup>1</sup>。
- 第1四半期の売上高は、報告ベースで4.1%増、営業ベースで5.4%増の135億3,800万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで6.9%増、営業ベースで8.1%増の61億4,100万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、2.2%増の39億9,300万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで22.6%減、営業ベースで17.9%減の7億4,300万ドルでした。スキリージ®の売上高は、9億4,000万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、4億6,500万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで1.6%減、営業ベースで0.6%減の16億4,600万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は7.4%減の11億7,300万ドルで、その内訳は、米国内が8億7,400万ドル、米国外が2億9,900万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、4億7,300万ドルでした。
- 神経疾患領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで19.2%増、営業ベースで20.4%増の14億8,800万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、6億1,400万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、4億2,700万ドルでした。
- エステティクス領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで20.5%増、営業ベースで22.5%増の13億7,400万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、6億4,100万ドルでした。Juvederm(ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は4億1,000万ドルでした。
- 2022年度における調整後希薄化後EPSの見通しは、14.00ドル~14.20ドルから13.92ドル~14.12ドルへ更新します。これには、2022年第1四半期中の取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.08ドルのマイナスの影響が含まれます。



米国イリノイ州ノースシカゴ、2022年4月29日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2022年第1四半期(2022年3月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「2022年は幸先の良いスタートを切りました。第1四半期は、多様なポートフォリオで、特にスキリージ®、リンヴォック®、エステティクス、ニューロサイエンスが成長をけん引しました。今後も新製品および適応追加が続き、売上および EPS 成長が加速されます」

注意: 「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

<sup>1</sup>2022年第1四半期から、アッヴィは、コラボレーション、ライセンス契約、資産取得などに関する前払およびマイルストーン支払の影響を報告ベースの non-GAAP 指標に含めています。

## 2022年第1四半期の業績

- 売上高は、GAAP ベースで 4.1%増、営業ベースで 5.4%増の 135 億 3,800 万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで 6.9%増、営業ベースで 8.1%増の 61 億 4,100 万ドルでした。
  - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで 2.7%減、営業ベースで 1.8%減の 47 億 3,600 万ドルでした。米国での売上高は、2.2%増の 39 億 9,300 万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで 22.6%減、営業ベースで 17.9%減の 7 億 4,300 万ドルでした。
  - スキリージ®の売上高は、報告ベースで 63.7%増、営業ベースで 65.6%増の 9 億 4,000 万ドルでした。
  - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで 53.6%増、営業ベースで 57.3%増の 4 億 6,500 万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで 1.6%減、営業ベースで 0.6%減の 16 億 4,600 万ドルでした。
  - イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は 7.4%減の 11 億 7,300 万ドルで、その内訳は、米国内が 8 億 7,400 万ドル、米国外が 2 億 9,900 万ドルでした。
  - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで 16.9%増、営業ベースで 21.1%増の 4 億 7,300 万ドルでした。
- 神経疾患領域の売上高は、報告ベースで 19.2%増、営業ベースで 20.4%増の 14 億 8,800 万ドルでした。



- ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで 15.4%増、営業ベースで 16.6%増の 6 億 1,400 万ドルでした。
- Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、23.4%増の 4 億 2,700 万ドルでした。
- Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、1 億 3,800 万ドルでした。
- エステティクス領域の売上高は、報告ベースで 20.5%増、営業ベースで 22.5%増の 13 億 7,400 万ドルでした。
  - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで 34.4%増、営業ベースで 36.6%増の、6 億 4,100 万ドルでした。
  - Juvederm (ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は、報告ベースで 27.5%増、営業ベースで 30.9%増の 4 億 1,000 万ドルでした。
- GAAP ベースで、売上総利益率は 70.1%でした。調整後売上総利益率は 84.5%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、23.1%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は 21.1%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、11.1%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、10.9%でした。
- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は、1.1%でした。
- GAAP ベースで、営業利益率は 34.8%でした。調整後営業利益率は 51.4%でした。これには、仕掛研究開発費およびマイルストーン支払による 110 ベーシスポイントのマイナスの影響が含まれます。
- 純支払利息は 5 億 3,900 万ドルでした。
- GAAP ベースで、税率は、8.8%でした。調整後の税率は、12.1%でした。
- 希薄化後 EPS は、GAAP ベースで 2.51ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、3.16ドルでした。これには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した 1 株当たり 0.08ドルのマイナスの影響が含まれます。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

[https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-first-quarter-2022-financial-results.htm?\\_ga=2.210646997.1596391874.1651446589-2021493786.1636529042](https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-first-quarter-2022-financial-results.htm?_ga=2.210646997.1596391874.1651446589-2021493786.1636529042)



## アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com) をご覧ください。Twitter アカアカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

## Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, the failure to realize the expected benefits of AbbVie's acquisition of Allergan or to promptly and effectively integrate Allergan's business, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2021 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.